HOYOG 教区新報

1989. 7. 24号

発行所 浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
（本願寺神戸別院内）
電話 神戸(078)341―5949(代)
〔編集〕教区基推委広報部

赤穂の専修寺で

「女人だけのしるし不要」

ご門主 赤穂南・姫路中組をご巡教

即如ご門主様は五月二十五日から二十七日の三日間兵庫教区赤穂南組と姫路中組をご巡教された。

赤穂南組は二十五日午前十一時に新幹線相生駅にご門主様をお迎えし会所寺院となった永応寺（楠照洋住職）において帰敬式、式典その後組内僧侶寺族を対象とした法座Aが庫裏で、本堂でご門主と共に会食が行なわれた。

夜六時半からは組内のご門徒との話し合いの法座Bがあり八時半、一日目の日程を済まされ赤穂ロイヤルホテルで宿泊された。

二日目は午前九時ホテルを出発され専修寺（寺尾房丸住職）法光寺（聳城篤順住職）妙道寺（楠万千雄住職）をご巡回された。

姫路中組、会所寺院の光源寺（脇坂弘道住職）では午後から帰敬式、式典、法座A、夜は法座Bが行われた。

最終日はご宿泊の観光旅館播龍を九時に出発され正龍寺（関泰教住職）光徳寺（芝順祐住職）をご巡回。まねき食品本社四階で会食され、午後一時四十七分の新幹線で姫路よりご帰山された。（2ページに発言内容）

九折、豊原、寺田氏

宗会議員 無投票で再選

九折舜寿氏

豊原大成氏

寺田義淳氏

任期満了を待たず六月一日宗会が解散された。

僧侶宗会議員の選挙は七月二日に、門徒宗会議員は七日の臨時教区会において選出される。

兵庫教区僧侶議員の定員は三名で、立候補届け出は次の現職の三名の方々で、六月十二日に締め切られ、無投票再選が決まった。（届出順）

九折舜寿氏　66才現
揖竜西組正専寺住職
豊原大成氏　58才現
阪神西組西福寺衆徒
寺田義淳氏　74才現
赤穂北組淳泰寺住職

憶

政治の世界が大きく揺れ動いている。野党支持率はうなぎ登り、与党・自民の地盤ほど、変動が激しいという。政治家のための政治ということを、今さらながら露骨に見せつけられたためであろうか◆百家争鳴の宗教界は、政治の数十年前を歩んでいる。「万年与党」たる仏教の凋落原因を、重層信仰・新宗教群の台頭など、外に求めることは易しい。が、そうではあるまい。政治家(屋)を叱った某女史流にいうならば「僧侶の方々が信者さんをナメておられる」のが因ではないだろうか◆過疎寺院対策が耳目を集めているが、泣いているのは「お寺さん」だけではあるまい過疎過密で聞法の機会を失ったご門徒の、後生の一大事こそが問題である。「宗教以前の質問」に腹を立てるならば、その助長を許して来た自己の活動を、まず恥じねばならない◆口を開けば「御同朋」だが、僧侶・教団の体質は、その言に恥じるところがありはしないか。政界をもって、他山の石としたい。（川端正道）

教区だより 7月

1日(土)　基推委常任・企画会議　10時半
2日(日)　連区仏壮連絡協議会　岐阜別院
3日(月)　常備会　1時
4日(火)　仏婦ブロック　野瀬善隆師(滋賀教区)　10時　姫路西組本徳寺
5日(水)　仏婦ブロック　都呂須孝文師(連研中央講師)10時　姫路西組本徳寺
6日(木)　兵庫教区御同朋総結集開会準備委員会　10時半
7日(金)　教区会　10時半
　仏婦常例　寺田寛了師(揖竜西組浄教寺)　1時半
8日(土)　仏壮ブロック　藤栄行信師(淡路組宣徳寺)　3時　高砂組明覚寺
　スカウトクラブ総会・研修会　7時
9日(日)　仏壮ブロック　鷲尾衛凰師（神戸西組宝球寺）　岡山南組西方寺　10時半
11日(火)　仏婦ブロック　雪山隆弘師（運動本部専門委員）　岡山南組西念寺　10時
12日(水)　仏婦ブロック　雪山隆弘師 阪神西組西福寺 10時
12日(水)～13日(木)　連区青年布教使育成研修会　東大阪市ホテルセイリュウ
13日(木)　社推協総会　10時半
　社推協公開講座　1時半
14日(金)～16日(日)
　別院常例　太田唯念師(播磨中組西念寺)　1時半
17日(土)　矯正教化総会・研修会
19日(水)～21日(金)　仏婦委員研修旅行　関東二十四輩
23日(日)　仏壮ブロック　西脇修師(揖竜西組超念寺)　別院10時半
24日(月)　連区布教大会　兵庫教区布教団担当　別院10時
25日(火)　第二期寺族婦人連続学習会　①　藤田徹文師　10時
30日(日)　仏壮ブロック　増井浄見師(赤穂北組浄蓮寺)　姫路西組本徳寺　10時半
31日(月)～8月2日(水)　少年連盟サマースクール　定員50名　岡山日生・頭島
6日(日)　仏壮ブロック　高崎長英師(北摂組正光寺)10時半　出石組福成寺

「法」よ広がれ

お盆号を活用して下さい

寺号印刷して1部15円

「法＝みのり」と題した中の一枚は、法話のページです。それぞれのお寺で、ご門徒さんに配れるよう作ってあります。一月と三月にも活用をお願いしましたが、今度のお盆号は注文されるのに便利なように、一か月前に作製しました。

神戸別院ではお盆参りの各戸へ配ります。三月のお彼岸にも持参したのですが、好評で、お盆にも待っていらっしゃるに違いありません。西宮のご住職さまからもすでに百部の申し込みがあり、この一枚の「法」から真実の教えがすこしづつ広がって行くようで、うれしいことです。

なお、百部以上は題字の横に寺号名を印刷します。料金は一部十五円です。（事務局）

HO日誌

お斎をいただく

◆10日＝保育連盟総会を別院で。予決算報告等の後役員改選、理事長は引き続き山手幼稚園の廣瀬照晴師（神戸中組光尊寺）にお願いすることとなった◆13日＝社推協常任委員会。元年度の行事計画、総会の議事などについて◆14～16日＝別院永代経法要。講師豊浦順海師（備後教区）十六日は別修の開闢法要が午前中に厳修されお斎の接待もあった。最近お父さんを亡くされたご門徒の川口さんが、お斎をいただきながら「本当におやじを亡くすことは、寂しいことです」との言葉に「そのことを自分にふりかえ、生死を超える道を開くご縁としてもらえば……」と輪番（写真）◆15日＝スカウトクラブ役員会を夜七時別院で。今年度より本願寺派仏教章課程の指導要項の変更もあり、これからの教区内ボーイ、ガールの仏教章修得者にどう指導していくか又、今年は指導者に重点をおき研修を進めていくこととなった◆17日＝総代会役員会。ブロック研修会のすすめ方などについて◆18日＝神崎組住職寺族同朋講座が順教寺で。派遣講師は西脇修師（揖竜西組超念寺）◆19日＝寺婦ブロック別研修会を朝来組如来寺（但馬ブロック）で開催。講師は井上朋義師（加古川組正願寺）参加三十五人◆21日＝寺婦研修。姫路中組光源寺（東播、姫路、西播、岡山ブロック）講師西脇正文師（揖竜西組超念寺）参加百五十一人◆22日＝寺婦研修。別院（阪神、神戸、丹波）講師窪田正憲師（揖竜西組源徳寺）参加六十三人。

生前のご苦労を偲び 謹んで慶弔の意を表します。（敬称略）

阪神南組正恩寺住職　了慧　5月26日
「慈照院釈了慧」88才

神明組西照寺前住職　藤井　正亮　6月12日
「照蓮院釈正亮」85才

神戸西組徳善寺坊守　岡崎　節子　5月31日
「智徳院釈尼妙節」64才

7月24日に第3ブロックの布教大会

来る七月二十四日に神戸別院で第三ブロック布教大会が開催される。

この大会は毎年、中部近畿八教区の布教団が順に担当し、各教区から布教使の代表者一名が前もって提出した講題にそって三十分の布教をおこなう。

また、大会の修了後には各教区からの出講者と共に参加の布教団担当専従員も加わって、懇親の場がもたれ現代布教の在り方や、布教大会の持ち方についての意見交換などが予定されている。

なぜ「尼」をつけないのか
お宮の役はやめられぬ

―― 法座Ａの質問から ――

二組ご巡教の中から僧侶寺族対象の法座Ａで出された問題点などを発言順にとり上げると次のとおり。

▽門徒戸数について、四百年の懇志もやっとのことで完納しようとしている地方のお寺や、何の苦労もなく収めているお寺もあることを知っていただきたい。教区内では、都市部の実数は郡部より少ないのではないか。

▽仏婦の役員さんが本山の総連盟総会出席のさい、ご講師より「この中で神だなを祭っている方手を上げて下さい」「お宮の役をやっているかた手を…」その後手を上げた力に「その方すぐやめて下さい」と指摘された「お宮の役をやめるくらいなら寺の役員やめさせていただきます」と帰って報告しに来た、講師の上から押さえつけるような話に不満があったようで、本部では段階的に神の話をするなど、もっと一般寺院に対する影響などを考えて話して欲しい。

▽現在にあった布教伝道の在り方をもっと中央が積極的に示して欲しい。新しい位牌があったり、神だながあったり、とんでもない経本が仏壇の中にあったり、墓石にどう刻むかと言われた時どうするのか、どうしても変えなければならない理由を聞きたい。

▽今度本山より出た意訳聖典、読みやすいし、よく分かるが非常に重い。もっと軽くいつでも持って親しめるものにしてほしい。

▽御同朋の社会をめざしてとの掛け声であるが私は三男で寺を継いだが長男が放棄しなければ継ぐことは出来ない仕組みだ、長男に特権がある。世襲制と御同朋の関係矛盾を考えてしまう。

▽この真宗教団の十年、二十年先のことを心配する。山陰のテレビでの紹介があったが兵庫においても坊守の実家のある郡部の方ではもう寺として立って行けない所もある。首都圏には寺が少なく、田舎の寺院多数では支えられない本願寺になりはしないかと危惧する。

これらの意見に対しては随行講師と随行長（総務）が答えられた後、ご門主様は次のように感想を述べられた。

宗門にとって言葉を分かり易くすることは大切であり私も心掛けております。

姫路の光源寺で行われた法座Ａ

ある非公式の場で新しい宗教の教祖と言われる方にお会いしたが「長い歴史を持ったご本山はわからない言葉を使っても人は逃げていかないが、私の所はわからなければ人はついて来てくれません」私もなるほどと思いました。

しかし、安易に言葉を易くすればすむかというとそうでもないと思います。「言葉がわからない」と言っている人の本音をもっと考えるべきではないか。

ハワイ教団は日系人中心の教団でありまして日本語から徐々に英語に変わりました。今はほとんど法話をはじめ英語で行われていますが、日本語がわからないからお寺に行かないという人がある。でも「日本語でやってますよ」と言ってもやっぱり行かない。

ようするに、言葉を言い訳にしてお寺に行かない人も少なくないようです。

言葉をこえて言葉の奥にある何としてもお伝えしなければならないものがボンヤリしているのではないでしょうか。言葉が少々不自由でもこれを言わずにはおれないとのことがあれば伝わるのではないか。

法名の尼のことですが、もう少し一般的状況の中では男女の区別が必要なのは寝室やお風呂等々などで、その他は個人の自由で、髪型、服装など制度で区別する必要はないでしょう。

そういう意味で法名も便宜上分けたほうがよい場合もあるかもしれませんが、女の人だけしるしを付けるのはおかしい。たとえば、お風呂屋さんの入り口に男の方だけ風呂、女の方だけ女風呂と書いてあってはおかしいと思います。

都市開教のことについてですが、私も過疎地にまいりますとどう挨拶してよいか困ってしまうこともあります。人間がいるかぎりその一人一人が仏法を聞きお念仏を喜んでいただくことが必要です。

現実的には宗門が首都圏に基盤を持たないのは将来不安ですけれども、それは運営上の問題であって本当の願いは大都市の人々が法に遇わないことをほっておくことこそできない。仏法に遇い本願に遇っていただかねばならないのです。

近年、都市開教について宗門の施策は進んでいるがそれに伴いそれを生かす人が育っていないことこそ問題ではないか。

男であれ女であれ、一人一人がかけがえのない人生を往生浄土への道を歩むことこそ大切でありましょう。

そうした上において習俗の問題も応用出来るのか出来ないのかを考えることでしょう。

たんに交通規則を当てはめるように、あってるんだ間違ってるんだといった問題ではないように思います。

（文責記者）

今、お寺で

寺報から

ビデオ過去帳つくろう

住職と現代について語るサンテレビの大原性宣師

◆5月24日＝組長会長常任企画会議を別院で「兵庫教区御同朋総結集開会」に関する基本規程案についての検討◆25～27日＝即如門主第二期組ご巡教。ご門主様が赤穂南組、姫路中組をご巡教される。ご門主様が少しカゼぎみのご様子なのでご本山の侍僧さんもお気遣いのようでした◆28日＝仏壮理事会。先に開催された十五回総会と神戸大会の反省、決算。ブロック研修の内容などについて◆29日＝保育理事会、元年度総会について◆総代会の会計監査を、総会提出の決算書、帳簿、支出立案等に目を通していただく◆30日＝総代会総会を別院で。予決算、ブロック研修などの事業計画と教区年度会費の増額等審議◆岡山市の江並教堂上棟式が近隣の門信徒からお祝いが届き、晴天にも恵まれ無事行なわれた◆31日＝城崎組住職寺族同朋講座が徳証寺で。教区よりの派遣講師は松島法城師（多紀組専福寺）◆6月1日＝布教団総会・研修会を別院で。予決算、事業報告と計画。研修会は「現代布教について」と題して大阪教区より天岸浄円師◆職員会議を会議室で。毎月一度のこの定例の職員会議では教務所及び神戸別院の日程調整や主な行事についての打ち合わせをする◆2日＝阪神東組住職寺族同朋講座が福円寺で。教区よりの派遣講師は松島法城師◆常任企画会議。結集大会と教化団体ブロック研修の内容など◆広報研修会を午後三時より「テレビ・住職・過去帳」と題してサンテレビプロデューサー室長の大原性宣師（京都教区桑船組福正寺住職）の講演。寺と門徒の結びつきをどうするか、別院の悪口をいうわけではありませんが、こんな雰囲気のところ若い人は来ないですわ（笑い）私はこんな提言をしたい。今、どこの家庭にもどんどんホームビデオカメラが普及している。そのカメラで子供を撮らないでお年寄りを百年続けて撮りなさい。ご法事の時にきっとみんなが「先代さんはこんな人だったのか」とお説教もはずむこと請け合い。ビデオを過去帳として利用して下さい◆篠山鳳鳴高校のバスケットボール部が神戸での試合の為別院に宿泊◆3日＝神姫組住職寺族同朋講座が了慶寺で。教区よりの派遣講師は藤栄行信師（淡路組宣徳寺）◆神戸西組徳善寺坊守葬儀に教務所長、本山よりの達書伝達のため出席◆バス一台で山陰教区因幡組浄徳寺より団参◆4日＝滋賀教区野洲組円立寺より団参◆宗会選挙事務担当者会議が本山で、職員二人出席◆6日＝別院で夜七時より雅楽練習のため教区内の後住さんなどが中心の「清風会」例会◆6～7日＝連区少年指導者研修会が岐阜別院で開催、教区より六人参加。手品の実演などがありこんどの日校でチャレンジ◆7日＝別院仏婦常例、講師貴島信行師（大阪教区）『真宗の三本柱の教え、少し分かったような気がします』とお同行◆7～8日＝組長、副組長、組相談員合同会議を丹波多紀ブロックのお世話で氷上郡柏原町の「吉祥苑」で開催、参加者七十六人。研修、事務連絡、懇親会があり内四十六人宿泊。研修会には大阪大学教授の大峯顕師（奈良教区専立寺住職）をお迎えしての「浄土真宗と言葉」の講演。真実の言葉とは何かを説かれ、予定時間を超えて質疑があるほどだった。

（4ページへ続く）

金柱を塗り替え

本堂内陣の金柱の金箔がはげ落ちて、黒ずんで見えておりましたが、今回有志の方によって、八本のうち四本の金柱が美しく塗り替えられました。

これには、某さん（匿名）が中心になり、岩本芳夫氏、本田博樹氏、粟井ふじゑさんその他の人々が協力して、立派に出来上りました。総額百二十万円かかりました。

施工は浜屋で、京都から塗師が二人来て、三日間泊りがけで下地に漆（うるし）を塗り、何日か置いて金箔を押しました。金の下地の漆と言うのは、何度も何度も上に塗り重ねて、湿度の高い中で静かに乾かさないと、あとうまく金箔がのらないようです。

これで内陣が、以前の平松みつさんの寄進で前机、そして今回の金柱塗替えで一段と美しくなりました。

末々までも永く、尊前を美しく荘厳することは、最良の精神的遺産になることです。共々に篤志の方々に、厚くお礼申し上げます。

（妙道寺季報40号）

永代経を無事に

☆過日の永代経には、平井久雄・木村隆夫さんなどの方々から、いちご・ほうれん草・たけのこなど季節の旬のものをいただき本年も無事につとめることができました。

ありがとうございました。

（明元寺だより）